

有給休暇を取りやすい環境を！ 須田相談役の言う通り！

5月17日付『東京新聞』の「けいざいNewsbox」にJR東海須田寛相談役（初代社長）の寄稿文が掲載されました。須田相談役は「1、2時間の（早帰りの）問題ではなく、有給休暇を取りやすい環境づくりをすることが大事だ」と訴えています。

さて、我が社はどうでしょうか。年休は取れていますか？ 乗務員職場（特に新幹線）や一部の営業職場では、「順番が良くても年休が入らない」「たくさん申し込んでもほとんど入らなかった」「またまた今年も年休を流してしまった」などの声は後を絶ちません。

今年度の新幹線乗務員の休日出勤は、1人4～5泊と言われています。休日予定日公表廃止で、営業職場などではさらに年休の消化率が悪くなっています。まさに、須田相談役の考えに逆行していませんか？ 経営陣は、須田相談役の主張をしっかりと受け止め、年休が消化できる要員を確保すべきです。

5月17日『東京新聞』▶

けいざい Newsbox

★休暇はサボリじゃない



「有給休暇を取るとサボっていると思われるような発想を変えなければいけない」と意識改革を促すのは、JR東海の須田寛相談役（86）＝写真。月末金曜日の退社時間を早め、消費を喚起する「プレミアムフライデー」の効果は、新幹線利用を見る限りいまひとつ。「1、2時間の（早帰りの）問題ではなく、有給休暇を取りやすい環境づくりをすることが大事だ」と断言する。

リーダーズ